県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

資　料　提　供
令和８年 11 月 13 日
所属　保健福祉学部　保健福祉学科
理学療法学コース
担当　コース長　長谷川　正哉
電話　0848-60-1120（代表）

足裏の感覚から「歩き方の老化」に挑む
―県立広島大学発ベンチャー第１号・合同会社 ASI が「ヘルスケアイノベーションチャレンジ賞」を受賞―

県立広島大学（学長：森永（もりなが） 力（つとむ）、所在地：広島市南区）発ベンチャー第１号の合同会社 ASI（代表社員：長谷川（はせがわ） 正哉（まさき）・県立広島大学保健福祉学部教授）は、「第８回ヘルスケアベンチャー大賞」（主催：一般社団法人日本抗加齢協会）の最終審査会を経て「ヘルスケアイノベーションチャレンジ賞」を受賞しました。受賞事業は「知覚入力型インソール® ― 荷重感覚の教示により歩行の老化を抑制する事業」です。足裏への感覚入力を手がかりに、本人が荷重位置や姿勢・歩き方を学び直すという、理学療法学の研究から生まれたアプローチです。大学で蓄積してきた研究成果を製品・教育・企業連携へ展開し、社会実装につなげる取り組みが、ヘルスケア及びアンチエイジング領域で評価されました。

【ヘルスケアベンチャー大賞について】
健康寿命の延伸やウェルビーイングに直結する先進的なビジネスプランを称えるコンテストです。医学界の優れた知見や研究成果を実際のビジネスとして広く普及させ、世界に通用する医療・ヘルスケア産業を育てる架け橋として 2017 年から毎年開催されています。
各社は、健康寿命の延伸と社会課題の解決を目指し、世界市場も視野に入れた革新的な事業構想を披露しました。

１　対象者
・受賞者：合同会社 ASI 代表社員 長谷川（はせがわ） 正哉（まさき）（県立広島大学 保健福祉学部 教授）
・共同研究者：大古場（おおこば） 良太（りょうた）（県立広島大学 保健福祉学部 助教）

２　受賞事業概要
【足裏の感覚から「歩き方の老化」に挑む】
知覚入力型インソール®（PSI）は、足裏への感覚刺激を利用して「どこに荷重しているか」を本人に分かりやすく伝え、利用者自身の気づきと動作学習を促す技術です。矯正によって身体を外から固定するのではなく、感覚を手がかりに自分自身で姿勢や歩き方を学び直す点に特徴があります。
長谷川教授と大古場助教は、理学療法士としての臨床経験の中で「介入直後に動きが改善しても、生活の中ですぐ元に戻ってしまう」という課題に着目しました。その背景に姿勢や動きの“癖”があると考え、足底感覚を利用して動作を学び直す方法を長年研究してきました。PSI に関する研究成果は、歩行・姿勢研究の国際学術誌「Gait & Posture」や「BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation」などで継続的に報告されており、研究成果を基盤とした社会実装を進めています。

【研究成果を、大学の中だけで終わらせない】
研究成果を社会で使える形へ変えるため、2025 年４月に合同会社 ASI を設立しました。県立広島大学発ベンチャー第１号として、PSI を中核に、健康支援技術の社会実装、企業との共同研究・共同開発、人材育成を進めています。研究論文として成果を残すだけでなく、製品、教育、企業の商品・サービスへ展開し、社会に届く仕組みをつくることを目指しています。

【ヘルスケア領域で評価】

今回の「ヘルスケアイノベーションチャレンジ賞」の受賞は、大学で生まれた研究成果をヘルスケアよびアンチエイジング事業へつなげる取り組みが抗加齢医学領域から評価されたものです。合同会社 ASI はこれまでにも「第 32 回ひろしまベンチャー助成金」で HIROSHIMA Venture Excellence Award（83 社中１位）を受賞するなど、研究成果の社会実装を進めています。

今後は、医療・介護にとどまらず、健康増進、スポーツ、フットウェア、健康経営などへ応用領域を広げ、県立広島大学で生まれた研究成果を地域や企業との連携によって社会へ届けていきます。



合同会社 ASI 代表社員長谷川 正哉教授（写真左）と共同研究者大古場 良太助教（写真右）



県立広島大学発ベンチャー第１号 合同会社 ASI

3　関連記事

U R L：https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000084470.html

4　問合せ先

所　属：県立広島大学 保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学コース
担　当：長谷川 正哉
メール：m-hasegawa@pu-hiroshima.ac.jp